

# 徹底比較！川遊び服装ガイド!!

## 釣り派

### 帽子

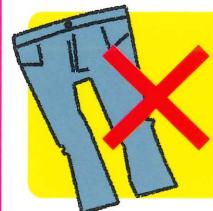
熱中症予防はもちろん、釣り針による事故を防いでくれます。

### サングラス

直射日光や、釣り針から目を守ります。また、偏光機能があるものは水面の反射光をカットできるため水面が見やすくなります。

### スパッツ

保温性と動きやすさを兼ね備えた、スポーツスパッツがおすすめです。化学繊維のため速乾性も高いです。



### デニム

デニム生地は、水を吸収しやすく肌にまとわりつく為、動きづらくなります。

### 履き物

川釣りは、岩場の上や滑りやすい場所を歩くため、靴底に滑り止めが付いている物を履きましょう。また、釣り針から肌を守る為なるべく素足が隠れるものを選びましょう。

## 水遊び派

### ヘルメット

川は滑りやすく、転倒事故も多い為、頭を守るヘルメットが大切です！※水抜き穴があるものがより効果的です。

### Tシャツ

夏でも長時間の川遊びは体温を奪われていきます。濡れてもいいTシャツなどを着ましょう。※綿繊維よりナイロンなどの化学繊維がおすすめです。



### 履き物

川の底はツルツルの石や、コケなどで大変滑りやすいです。靴底に滑り止めが付いている物を履きましょう。

## 川遊び必須アイテム



## 後志利別川でみることができる水の生物

### 上流



海に出るものと、川に残るもので分かれており、海に出るものと、川に残る小型のものをヤマメと呼ぶ。



上流から中流にかけての冷たい流れの川に多く生息しており、ウグイに比べて小型である。上あごの先が前に突き出ているのが特徴。

### 中流



清流を好み、櫛のような歯で川底の藻類を食べる。1年で稚魚から20センチ～30センチほど大きさに成長する。

### 下流



エラ穴が7つあり、目が8つあるように見えることからヤツメと呼ばれる。顎がなく、代わりに吸盤状の口をもつ。3～4年で成熟して、体長は70センチほどになる。利別川の下流ではサケの産卵床が確認されている。

写真提供：流域生態研究所

小田島裕一

2018  
夏号

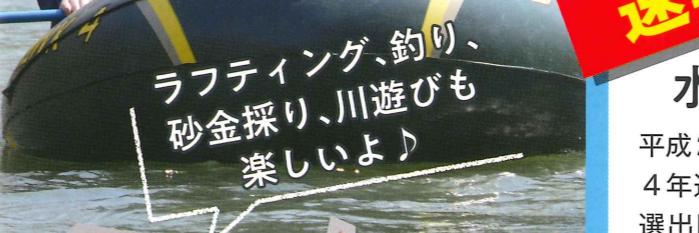
だ村  
明吉

いまかねの“魅力”発信マガジン

# 今金町地域おこし協力隊通信



## しりべしとしべつがわ 後志利別川ものがたり ～恵みの川のルーツをたどる～



速報

## 水質日本一に選ばれました!!

平成29年度国土交通省水質調査において、後志利別川が4年連続水質が最も良好な河川に選ばれました。

選出回数は全国最多の18回目となります。

日本一の清流「後志利別川」をこれからも大切にしていきましょう。

(平成30年7月6日付 国土交通省公表)



木元 奈

編集・発行 今金町地域おこし協力隊  
〒049-4393 今金町字今金48-1  
TEL 0137-82-0111 FAX 0137-82-3262

鈴木 佑馬



## しりべしとしへつがわ 後志利別川の名前の由来

「後志利別川」の名前の由来は、アイヌ語の「ツウシベツ」(山の走り根・大きい・川)、「ト・ウシ・ベツ」(沼の多くある川)、「トウツ・ベツ」(蛇川・縄川)などが由来とされていて、十勝管内にある「利別川」と区別するため、明治初期に道内を17郡に分けた際の旧国名である「後志」を冠したものです。

明治30年以降の新制度により、檜山管内になった現在でも「後志利別川」として名前がそのまま使われています。

## 川の歴史

普段、私たちが見ている後志利別川の姿は昔とは大きく変化しています。なぜ今と昔では川の姿が違うのでしょうか。

それは、後志利別川流域の度重なる川の氾濫などの水害から人々を守るために、人の力で川の姿を変えてきた歴史があるからです。



左側の3つの写真は昭和10年代頃(今から80年前)の川の工事の様子です。当時はトロッコの貨車を人の手や馬を使って土砂を運び出す作業をしていました。昔は橋が無く、船で川を渡る渡し船などもありました。長年の人々の努力によって、現在の川はゆるやかな流れに整備され、川向こうに渡るための橋も造られ便利な生活ができるようになりました。

## 河道の変遷

くねくねしている所は水の流れが曲がり切れず、洪水を起こしやすくなります。そのため、少しずつ整地して現在のスムーズな流れに変えてきました。

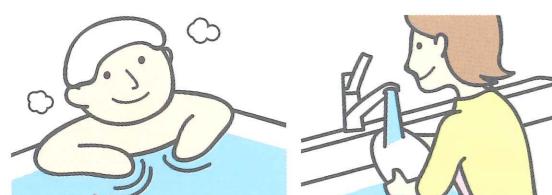
赤いところは昔よく洪水を起こしていた部分です。実はみなさんが住んでいるところは、昔、水で覆われていたかもしれません。



## 私たちの暮らしの中にいかされる後志利別川の水

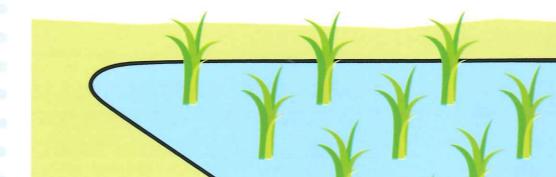
### 生活用水として

のみ水や炊事用、あるいは風呂やトイレ・洗濯など、生活するうえで必ず必要になってくる水です。今金町内の水道水は地下水をくみ上げて各家庭に配水し使用していますが、美利河・花石方面の約100世帯に限っては、後志利別川から水を引き上げ、ろ過して届けられています。



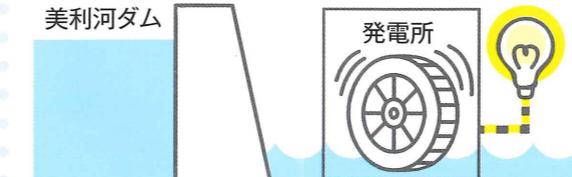
### 農業用水として

後志利別川には住吉頭首工と中里頭首工の2つの頭首工があり、合わせて約1600haの農地に水を供給しています。毎年5月~8月の農作物を育てる時期のみ水を引いており、住吉頭首工は毎秒3トン(25mプールを3分でいっぱいにするくらい)の水が流れています。日本一の清流と豊かな土壤に恵まれた今金町は、道南有数の農業地帯です。



### 水力発電

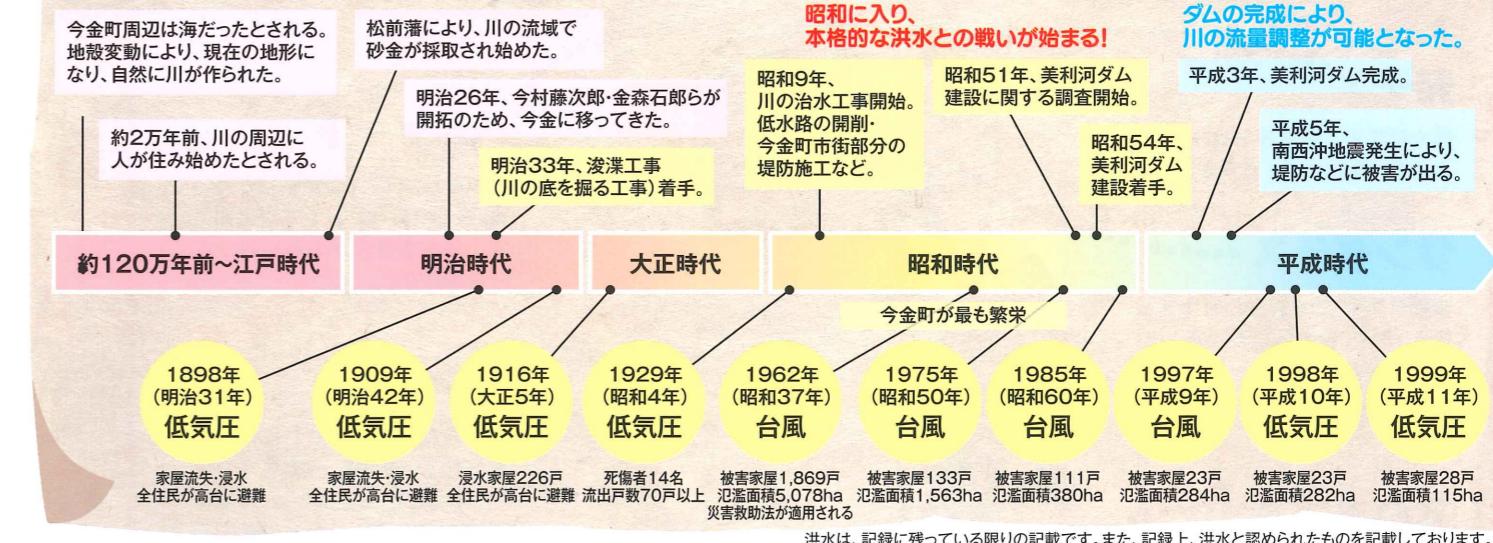
ほくでんによって運営されているピリカ発電所は、ダムの水を使ってタービンを回し、最大で約4,000kwの電力を発電させます。4,000kwの電力は人口約6,000人の町で使う電力をまかうことができます。美利河ダムが完成した同1991年5月から水力発電も運転開始しています。



## 洪水との戦い

河川流域に住む人々と洪水との戦いは、切っても切れない果てなきものです。

ここ、後志利別川でもその戦いは昔から繰り広げられており、昭和初期から河道の安定化に向けた治水対策が行われ始め、最終的には美利河ダムの完成により抜本的な洪水対策が講じられ、下流の減災に役立っています。



洪水は、記録に残っている限りの記載です。また、記録上、洪水と認められたものを記載しております。

### 自然環境

流域の動物は、ヒグマ、キタキツネ、エゾリス等の哺乳類や、鳥類は天然記念物のオジロワシ、クマゲラ等が見られます。後志利別川は、サケ、マスの遡上河川とされ、カワヤツメ、アユ、ウグイ、フグドジョウなど魚種も豊富に確認されています。また絶滅の恐れがあるエゾサンショウウオの生息も確認されています。



### 流雪溝

流雪溝とは、道路の地下に作られた冬でも水の流れる水路です。地上の投雪口から投げ入れられた雪を水の力を利用して流末の河川などに運搬するしくみになっています。流雪溝のおかげで、冬の間、市街地には雪山が無く見通しのよい道路となっています。流雪溝の利用は毎年12月1日～翌3月20日までと決められており、平成29年度は1,784,688m<sup>3</sup>(札幌ドーム1個と1/3個分)の水が使われています。

